

野付小学校だより

校長 大沼 好夫

# 三角帆



第5号

平成20年7月25日

## 1学期無事終了

校長 大沼 好夫

27名の新生と6名の新しい先生を迎え、平成20年度のスタートを切りました。1年生も学校生活にすっかり慣れ楽しそうに生活しています。校歌も大きな声で歌えるようになりました。上の学年の子どもたちも1年生を自分の兄弟姉妹のように温かく迎えてやることができました。

今年度は、担任の持ち上がりがなく、新たな気持ちで子どもたちも先生方と一緒に学級作りに励んでいました。「おはようございます。」の朝の挨拶も元気にできるようになりました。基礎基本を身に付け確かな学力の定着を図ろうと各学年で取り組んでいるところです。また、休み時間を5分間長くしたことによって「外遊び」が多くなりました。その中で子どもたちは異学年と一緒に遊んでいる姿がうれしいことです。遊びの中で子どもたちは多くのことを学びます。ゆずり合ったり、我慢したり、助け合ったり、悔しかったり、楽しかったりと、様々な経験をします。そんな中で社会性が育っていくのです。

お子さんの1学期の学校での学習や生活について「のつけの子」でお知らせします。お子さんのがんばりを褒めてあげてください。子どもは、「がんばれ」と言われるより「がんばったね」の言葉の方がずっとうれしいそうです。

## 明日から夏休み

子ども達は、時間・空間・仲間の3つの間から開放され、家庭で生活することになります。普段なかなか子どもと一緒になにかをやる事ができません。夏休みでしか出来ないことにチャレンジして欲しいと思います。親子で何かを作ったり、遊んだり、釣りをしたり、家の周りの草取りをしたり、親の仕事を手伝ったりなど子どもと一緒にできることを考えてください。家族でのキャンプでもいいです。キャンプでは、子どもに仕事を与えるとよりいい思い出になると思います。動物園で実際に本物の動物を見て感動する経験をするのもよいでしょう。小さいときのことは忘れても、そのとき、そのときの感動や体験の積み上げでその人の人格が形成されるからです。よい夏休みを！



## 野付神社祭

7月29日～31日

相撲大会は31日です。  
午前9時30分より、幼稚園児からスタートです。  
参加する児童は、9時30分までに神社に集まりましょう。

## 夏休み

### ラジオ体操

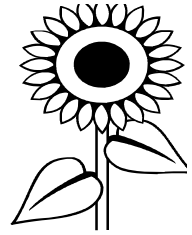


尾岱沼子ども会育成協議会で毎年実施している夏休みラジオ体操にがんばって参加しましょう。町内会ごとに7月26日から8月19日までやります。

(8月13日～16日は休み)



2日(土)	雪印杯少年野球大会(Jr)
15日(金)	子ども花火大会(東公民館)
16日(土)	仮装盆踊り(東公民館)
17日(日)	港こどもまつり(港公園)
20日(水)	第2学期始業式
21日(木)	貯金日 健康教育セミナー(札医大生来校)
22日(金)	職員会議
23日(土)	スポーツ少年団杯少年野球大会(Jr)
25日(月)	発育測定(1～3年生) 委員会活動
26日(火)	朝会 発育測定(4～6年生) 青空読書会(1・2年生)
27日(水)	5・6年生水泳学習
28日(木)	3・4年生水泳学習
29日(金)	1・2年生水泳学習 クラブ活動 白鳥号
30日(土)	秋季少年野球リトル大会



## 根室地方PTA母親研修に参加して

7月21日(月)に羅臼町春松小学校で、今年度のPTA母親研修が開催されました。本校からは5名(P2名、T3名)が参加しました。真生会富山病院心療内科医師でスクールカウンセラーの明橋大二氏の講演会でした。明橋氏の著書「子育てハッピーアドバイス」はシリーズ累計で200万部を超えるベストセラーとなっています。

『自己肯定感を育む子育てを考える』と題された講演では、今の子どもをめぐる問題の根底には「自己評価の極端な低さ」があると指摘していました。ここで言う「自己評価」とは、自己肯定感や自尊感情のことだそうです。自己評価が低いということは、自分に自信がもてなかったり、自分には生きている価値があるのかという気持ちが強くなったりしてしまう子どもが多くなっているということになります。

明橋氏の話の中で、「子どもの心は、依存と自立が行ったり来たりしている」が印象に残りました。「依存してあまえる」は安心感があるけれども不自由な世界、自由さを求めて自立するが、そこは不安の世界で、子どものペースで行ったり来たりすることがよいそうです。「あまえ」は子どもの愛情要求なので、大人の都合(今は忙しいから など)で拒否してしまうと要求が満たされないまま育ってしまうことになります。あまえた人がちゃんと自立するのです。

- ・依存させない関わり～放任 ネグレクト(養育放棄)
- ・自立させない関わり～抑圧 過干渉

### 自己肯定感を高める具体的な対応(幼児期)

- ・スキンシップ(だっこ) 大事にされている、自分には価値があると感じる
- ・子どもの気持ちをくんで言葉で返してやる 子どもの言葉を繰り返してやる
- ・子どもの話を聞いてやる
- ・子どものがんばりを認めてねぎらってやる 「がんばれ」よりも「がんばってるね」
- ・「ありがとう」は相手の存在価値を高める

幼児期を過ぎた子でも同じことをやり直せばよいそうです。

### 講演の最後の絵本「くまのこうちょうせんせい」より

「子どもは明るく元気が一番と、大人は思いこんでしまいます。でも本当は、子どもは小さくて弱いものなのです。子どもたちの痛みを分かち合うのが大人の役目だと思います。」

